

放送大学 学びを支え30年

松山 愛媛学習センター記念講演会



生涯学習の意義などを話す放送大学の岩永雅也学長—22日午後、松山市文京町

テレビやインターネットを通じて好きな時間に学べる放送大学愛媛学習センターの開設30周年記念講演会が22日、松山市文京町の同センターであった。岩永雅也学長が「『知は力』につ

いて考える—生涯学習と放送大学—と題して講演し、学生や関係者約100人が学ぶことの意味や価値を考えた。

岩永学長は「流動性知力」と呼ばれる暗記や記憶は20代をピークに落ちるが、既にある知識を組み合わせてストーリーをつくる「結晶性知力」は60歳ごろまで着実に伸び、生涯学習の強い味方になると説明。その好例がジャーナリストの池上彰氏で、さまざまな情報を結び付けたニュース解説を「知識や知見を使って正解のない課題への解を試みている」と紹介した。

放送大学の現状に関しては、2024年度第2学期の学部生は50代以上が46・3%と半数弱を占める一方、10〜30代も35・5%と増加しているとした。

愛媛学習センターは1995年に開設され、9月末時点の卒業・修了生は学部が延べ1461人、大学院は同59人。現在は18〜94歳の749人が学んでいる。

(亀井咲希)